

# 教師として

## 星城で学び、 教師として 母校に恩返し

— 教師として —

### 時間は、すべて 生徒のためにある。

住井 篤夫先生 (体育)  
(星城高等学校第2回生)



当時在職されていた永井先生や入交先生には恩師としてまた、先輩として「いろはのい」の字の前から指導されました。本当に厳しかったが、それが今でも生きています。それは、毎日がやりがいであり、生徒に求めるテーマを自分がきちんともっているかどうか、それをもって授業に臨んでいるかどうかだと教えられました。教師というのは、生徒に育てられる、生徒から教えてもらって育つ、だから教師は授業を大切にしないといけないのです。

### なすことの ひとつひとつが楽しくて 命がけなり あそぶ子ら

誰もが経験があり、時間を忘れて夢中になる。こういう授業ができたら私は、最高です。

— 教師として —

### 子どもたちの ために一生懸命

木下 秋次先生 (体育)  
(星城高等学校第12回生)



私は教師としても、野球の指導者としても、常に子どもたちに情熱を傾ける姿勢でありたい。子どもたちが持てる力以上のものを発揮してくれた時は、本当にやりがいを感じます。

### 子どもが好きで、情熱がある

教育は人間そのものを指導するため幅広い指導力が問われます。生徒たちと接する時間を多く持ってこそ、先生と生徒との信頼関係が生れると思います。

— 教師として —

### 自己への挑戦

近藤 好紀先生 (社会)  
(星城高等学校第13回生)



私は、生徒が自分の指導によって心を開いてくれた時、また指導した生徒が卒業後に一人前になって「あの時の先生の言葉が生かされて今の自分がある」と、誇らしげな姿を見た時、やりがいを感じます。

### 的確な判断力と、説諭力 そして生徒との信頼関係

人を指導するのは難しい。しかしその人の人生をより良き方向に変える事ができる職に就けて感謝しています。

— 教師として —

(生徒たちの)

### 「わかった!」 「できた!」という 本当の『笑顔』が見たい

春木 利久先生 (数学)  
(星城高等学校第14回生)



小学校の時、長期欠席していた友人宅を毎日訪れ、学校のことを伝えてとても感謝されました。人に物事を伝えることの楽しさ、難しさ、更に本当の「笑顔」で感謝されることの喜びが、私の教師としての原点となっています。

### 原点は、本当の「笑顔」に触れたい

教師自身が常に「素直」な心で生徒に接して、ともに成長しようとする姿勢が大切だと思います。また、多くの「笑顔」と出会えるように日々努力しています。

— 教師として —

### 自分の信じる 道を進む

石川 暢夫先生 (社会)  
(星城高等学校第14回生)



私は、勉強と運動、両方バランスよくできる人間を育てたい、そして母校に恩返しをしたくて教師になりました。ある時、テストの採点で難解な問題にもかかわらず、意外な生徒が解いてくれました。思わず「よくやった」とつぶやき、答案用紙にその生徒の顔が浮かびました。

### 先見性と高い専門性

粘り強く時間をかけて教えて、わかってくれたときはやはり嬉しく思います。

—教師として—

## 根気と継続、そして前進

大石 幸永先生 (数学)  
(星城高等学校第15回生)



私の転機は中学3年生頃でした。それまでは勉強をあまりしなかったのですが、数学の授業で教科書にはないやり方で方程式を解いた事がありました。当時の先生がいたく感動をして他のクラスでも伝えていました。私も気が良くなり、最後にはクラスで数学では誰にも負けなくらいになっていました。

**自分が勉強して得た事を、生徒へ伝える。**  
先生の言葉の影響は大きく、自分が得た事を生徒に伝えたいと思います。

—教師として—

## 絶対に、情熱

大参 智美先生 (体育)  
(星城高等学校第25回生)



先生になりたい、大学の剣道部に入部したい一心で「絶対に無理だ」と言われた体育学部へ進学しました。高校で過ごした3年間が私の基盤です。生徒達にもよい経験をさせてあげたいと思っています。

**誇りを忘れず「自分の信念」をしっかり持つ**  
いろいろな出会いがあり、その人たちから教えられることもたくさんあります。でも実は、生徒から得るものもたくさんあります。

—教師として—

## 「信念を持ち、こつこつと努力」

上山 敏広先生 (社会)  
(星城高等学校第26回生)



剣道は小学校1年生からやっていましたが、中学生までは全く実績がありませんでした。高校2年生で初めて全国大会へ出場したことはとても感動的で、この「感動」を子どもたちにもぜひ味わってほしいと思い、教師を目指しました。現在、剣道七段を目指し、OBの関屋先輩と朝稽古をするなど鍛錬を重ねています。

### 幅広い視野を持つこと

自分が工夫して、その成果が現れた時はやりがいを感じます。感謝のできる人を育てていきたいと思っています。

—教師として—

## 勝負は気持ち、何事にも気合負けするな

城戸 孝之先生 (英語)  
(星城高等学校第31回生)



高校2年生の時に英語の弁論大会でネイティブの審査員の方々を大うけさせて優勝しました。中学までは英語の成績は「2」でした。尊敬できる先生との出会いで授業を頑張って継続しているうちに得意科目に変わりました。苦手が得意になった、これは自分の中でとても大きな事でした。

### 子どもをしかる事 できない子をできるようにする これが醍醐味

子どもたちにもそんな経験をさせてあげたいと思います。

—教師として—

## 厳しさ、やさしさ

長江 孝継先生 (英語)  
(星城高等学校第33回生)



生徒とのコミュニケーションが何より楽しく、生徒に気持ちが伝わり、わかったという反応をみせてくれて、頑張っている姿を見るのが私の何よりのやりがいです。

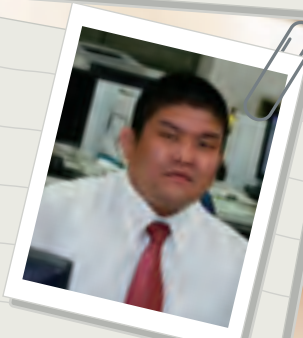
### 生徒とコミュニケーションをとっている瞬間が一番嬉しい

専門だけではなく、いろいろな経験をしてその中で雑学をたくさん身につける必要があると思います。それは生徒とコミュニケーションを図る大事なツールにもなります。

—教師として—

## 自分で開拓していく力を蓄える

小島 宏之先生 (国語)  
(星城高等学校第33回生)



高校時代は、勉強と柔道の両立にひたすら頑張りやり遂げました。現在は、教えた生徒が全国的に活躍していくようになる、また自分で努力して結果を出すような人物になっていくことを目標にし、やりがいを感じながら、仕事をさせてもらっています。

### 厳しさやさしさ、人を見抜く力

私が大切に思う事は、今後は必ず自分たちが中心となっていくかなければならない時がきます。だからあきらめずに目標を持ち続け、自分がすべきことはし、責任ある行動を意識し、自分の道を切り開いていくことです。